



木徳神糧株式会社

第67期

中間株主通信

平成26年1月1日 ▶ 平成26年6月30日



事業の立て直し、
次なる成長のための変革に、
しっかりとした手応えを
感じられた上半期となりました。

代表取締役社長 平山 淳

Q 2014年12月期の上半期業績の 振り返りからお聞かせください。

主力の米穀事業の利益拡大が
全社業績を牽引しました。

2014年12月期の上半期は、主力の米穀事業で販売強化を目的として営業提案を積極的に展開したことが奏功し、精米数量・玄米数量ともに前年同期を上回る水準で推移しました。特に中食・外食等向けの精米及び玄米の販売が堅調でした。しかしながら、国産米販売価格が大幅に下落していること、ミニマム・アクセスによる外国産米の取扱量が減少したことなどを要因に、連結売上高は前年同期比6.2%減となる539億48百万円となりました。一方、利益面では、順

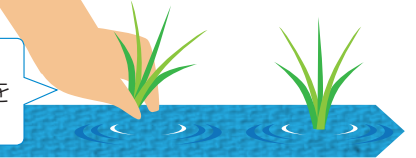
調に国産米販売が拡大した米穀事業の利益拡大が全社業績を牽引し、同営業利益は、前年同期比130.0%増となる5億30百万円と大幅な増益を達成することができました。2013年12月期の期末決算で平成24年産米の持ち越し在庫に対する簿価切り下げを実施し、身軽な体制で新しい期に臨めたことが米穀事業の好調のベースとなり、また、販売・製造・仕入れの連携強化、在庫の最適化、仕入原価の低減、製販コストの削減といった取り組みが奏功した結果であると認識しています。

一方、食品事業では、付加価値商品であるたんぱく質調整米などの販売は好調でしたが、鶏肉を取り扱う子会社・内外食品株式会社の業績悪化が継続したこと、惣菜加工工場を閉鎖した



田植え編

4月～5月に育苗箱で育てた苗を田んぼに植えていきます。



ことなどにより、売上高は微増となりましたが、利益面では営業損失計上という、厳しい結果となりました。

また、鶏卵事業は、需給引き締めを背景に鶏卵相場が高めで推移している中で、特殊卵の販売量を大きく伸ばしましたが、販売競争の激化により、価格改定が進まず利益率が低下しました。また、量販店における特売企画の減少により、一般卵の販売数量が激減したこともあり、売上高、営業利益ともに前年同期比でマイナスとなりました。

飼料事業は、配合飼料相場が高値安定で推移している中、輸入飼料を中心に販売数量が減少したものの糟糠類を中心とした配合飼料原料・単味飼料の販売が堅調であったことから、売上高・営業利益ともに微増となりました。

Q 中期3カ年計画の進捗状況は いかがでしょうか。

事業の立て直し、成長戦略ともに、
順調に進みつつあります。

2014年12月期は、自らの成長戦略を進めるためにも思い切った変革を実行していこうとい

う強い意志のもと、事業の立て直しを最大のテーマに掲げ、中期3カ年計画の初年度として始動しました。

変革に向けた取り組みのひとつが、米穀の仕入れ方法の変更です。豊作を背景に、市場の動きにあわせ、事前契約(複数年・収穫前等)と期別相対契約の併用を推進し、リスクの低減を図りました。平成25年産米は、昨年秋から今に至るまで価格が下がり続け、平成26年産米についても前年より低価格での滑り出しを見せていることもあり、この仕入れ方法の変更は、利益確保において大きな意義があったと認識しています。また、仕入れルート of 拡大・多様化、他にはない独自の品種・銘柄の取り扱い拡大に向けた取り組みも進捗させています。

広域卸としての機能強化については、福岡工場、岡山工場、滋賀工場の稼働率が非常に高い水準で推移していることから、岡山工場でラインの増設、福岡・岡山両工場設備更新を実施したほか、近隣に委託工場を確保し、拡大する需要にしっかりと応えられる体制を整えています。東北エリアでも、自社で工場を新設するのではなく、委託工場の活用を進めています。委託先の稼働率を上げることで生産コストの低減を実現できるほか、複数拠点からの配送が可能

となるため、物流費も含めトータルでコストを低減化できる状況となっています。

海外展開については、2014年2月より、ベトナムでの事業が新たなスタートを切りました。乾燥・糲摺り専用工場の稼働に伴い、高品質の美味しいお米の安定的供給、歩留まりの改善の両方にしっかりとした手応えを感じています。東南アジアで飲食店を展開されている既存のお客様からも品質面で非常に高い評価をいただき、契約量も順調に伸長しています。

また、ベトナムで独資による飲食店事業が可能になったことから、今後、日本の外食企業の進出が拡大すると見込まれており、このチャンス事業拡大の機会に繋がりたいと考えています。またベトナム国内における日本食ニーズの創出に努めながら、シンガポール、マレーシア、香港、タイなどに向け「美味しい木徳神糧のジャポニカ米」の浸透・拡大を進めるとともに、そのグレードバリエーションの提案として、日本米の拡販も目指していきます。

食品事業については、目下、鶏肉事業の立て直しを最重要課題とし、今期中に今後の展開への道筋をつけていきます。また、たんぱく質調整米「真粒米」の台湾・中国への販売に向け、合弁会社を設立し、台湾(屏東)のグリーン・バイ

オパークを活用して、コストダウンを図った「真粒米」の生産開始に向けた準備を進めています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

安定成長を実現する事業モデルへ、しっかりと変革を進めてまいります。

2014年12月期上半期は、おかげさまで上方修正を発表するなど、新たな成長に向けた手応えを感じられる状況となっています。下半期も引き続き、この好調を維持して、しっかりと利益を確保し、株主の皆様へ還元していくことが重要であると考えています。

下半期には、順調な滑り出しを見せているベトナム事業において、さらに乾燥設備能力の倍増に着手するほか、台湾のグリーン・バイオパークにおける工場建設にも着工する計画です。こうした海外での取り組みの拡大もさることながら、国内における販売・仕入れ方法の多様化を図り、安定成長を目指すことのできる事業モデルへと変革を進めていきます。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

収穫編

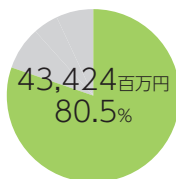
9月～10月に黄金色になった田んぼを稲刈りし、モミを取り出し乾燥させます。



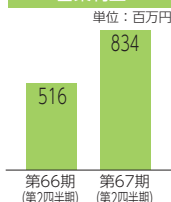
● 米穀事業



売上高構成比



営業利益

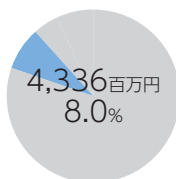


消費税増税に伴う駆け込み需要やその反動が概ね想定範囲内であり、中食や外食等向け精米及び玄米の販売数量は堅調に推移するも、平成25年産米の販売価格の大幅な下落と、ミニマム・アクセス米の取扱量減少により、売上高は43,424百万円となりました。しかし、販売、製造、仕入が一体となり、在庫の最適化や仕入原価の低減などの業務改善が奏功し、営業利益は834百万円となりました。

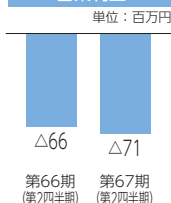
● 食品事業



売上高構成比



営業利益

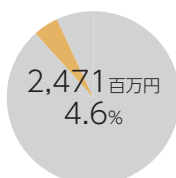


付加価値商品のたんぱく質調整米の販売が好調に推移いたしました。鶏肉を取り扱う食品子会社の業績悪化が継続したこと、惣菜加工工場を閉鎖したことなどにより、売上高は4,336百万円、営業損失は71百万円となりました。

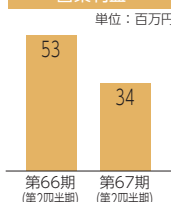
● 鶏卵事業



売上高構成比



営業利益



需給引き締めを背景に鶏卵相場は高値で推移しているなか、特殊卵の販売数量を大きく伸ばしましたが、量販店における特売企画の減少により一般卵の販売数量が激減したため、売上高は2,471百万円となりました。また、仕入価格が上昇しているなか、販売競争の激化により特殊卵の価格改定が進まず利益率を低下させたため、営業利益は34百万円となりました。

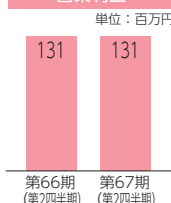
● 飼料事業



売上高構成比



営業利益



配合飼料相場が高値安定で推移しているなか、穀類等の販売数量が減少したものの、糟糠類を中心とする配合飼料原料及び単味飼料の販売が堅調であったことから、売上高は3,717百万円、営業利益は131百万円となりました。

日本米短粒種のおよさが浸透し始めてきている今、 発想力と機動力をもって事業の拡大を目指します。

取締役執行役員

海外事業統括 兼 コメ加工食品事業統括

石田 俊幸



Q 海外事業部で展開している 事業内容を教えてください。

海外事業部では大きく3つの業務を展開しています。1つ目が、ミニマム・アクセス米の取り扱いです。ミニマム・アクセス米とは、主に加工原材料用として日本政府が海外から調達する米のことで、2013年度は約77万トンが輸入されました。このうち、毎年10トンに限定した主食用SBS米も含まれますが、当社は、一般ミニマム・アクセス米、SBS米ともに輸入資格を有しており、業界2位となる6万6千トンを取り扱いました。また、タイ香り米の国内販売は、50%増の1,500トンを目指しています。

2つ目が、ベトナム事業です。ベトナムの現地法人アンジメックス・キトク社において、日本米（短粒種米）の作付け指導から集荷、製造、販売を行っています。2014年2月より、新たに乾燥・粉摺り設備を稼働させましたが、ベトナム国内はもとより、シンガポール、マレーシア、香港、タイなどへの展開で非常によい手応えを得ています。

3つ目は、シンガポールや香港などに向けた日本米の輸出事業です。平成25年産米は約500トン

輸出しましたが、平成26年産米は現在のところ900トンを契約するなど非常に需要が拡大しており、今後も伸びてくると予想しています。

Q 今後の事業成長に向けて 意気込みをお聞かせください。

経営ビジョン「コメビジネスを軸に世界中の消費者に日本米・日本食の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします」の達成に向け、道なきところに道を作る仕事であり、非常にやりがいを感じています。これまで難しいと言われてきた短粒種の市場創造ですが、ベトナムで展開している短粒種の製造・販売は非常に好評を得ています。輸出できる日本米の総量も増えてきていることから、今後は、高品質のベトナム産ジャポニカ米の浸透・拡販に努めるとともに、日本米をバリエーションに加えながら、展開を拡大していきます。

世界全体を見れば、米不足の状況にあります。大きく一歩ずつ、日本米の素晴らしさを普及させながら、事業規模を拡大し、企業成長に寄与していきたいという思いを強くしています。

精米編

モミすりをを行い玄米へ。
また玄米を精米します。



海外レポート

平山社長が中国大連の アンテナショップを訪問



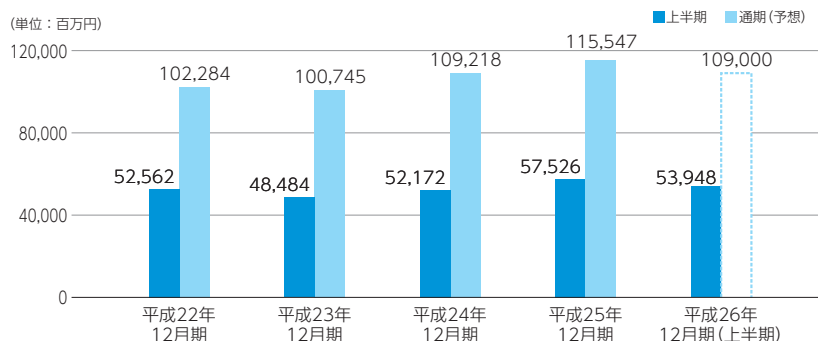
木徳（大連）貿易有限公司は、中国市場に展開する日系企業向けに高品質の米穀製品を供給するとともに、大連市内に設けたアンテナショップでは、中国産ジャポニカ米を展示・販売しながら、中国の消費者にジャポニカ米（短粒種）のよさを発信しています。



連結財務データ

売上高

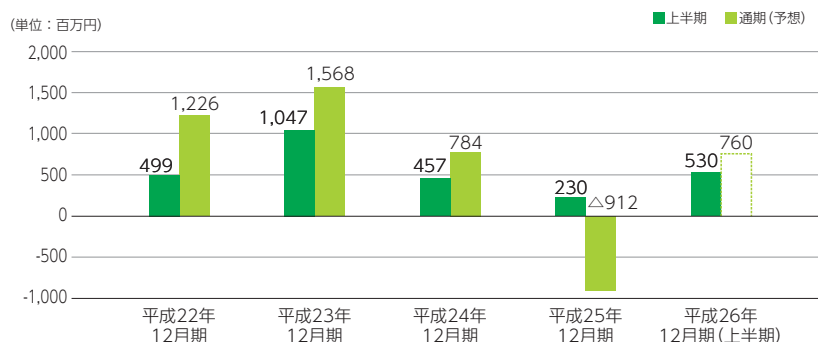
(単位:百万円)



主力の米穀事業におきましては、営業提案を積極的に展開し販売を強化したことから精米数量も玄米数量も前年同期を上回る水準で推移いたしました。国産米販売価格が大幅に下落したこと、ミニマム・アクセスによる外国産米の取扱量が減少したことから、売上高は、53,948百万円(前年同期比6.2%減)となりました。

営業利益

(単位:百万円)

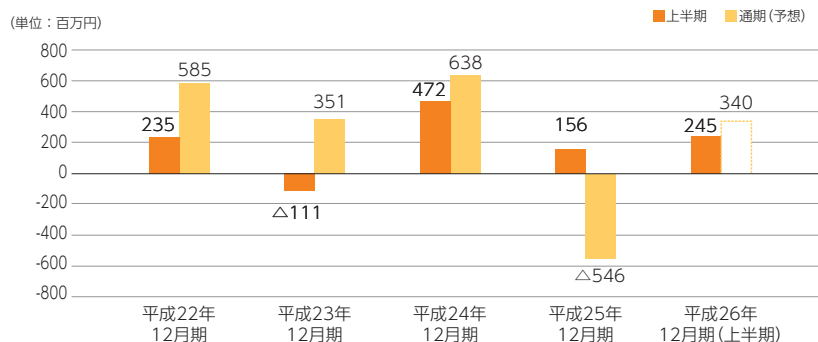


米穀事業における販売、製造、仕入の連携強化を図り、販売規模の拡大、在庫の最適化、仕入原価の低減、製販コストの削減に注力したことが奏功し、営業利益は530百万円(前年同期比130.0%増)となりました。

また、食品事業の惣菜加工工場の閉鎖による特別損失を計上しましたが、米穀事業の利益拡大が寄与し、四半期純利益は245百万円(前年同期比56.7%増)となりました。

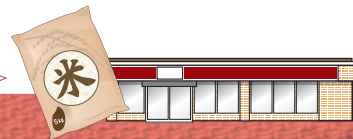
四半期(当期)純損益

(単位:百万円)

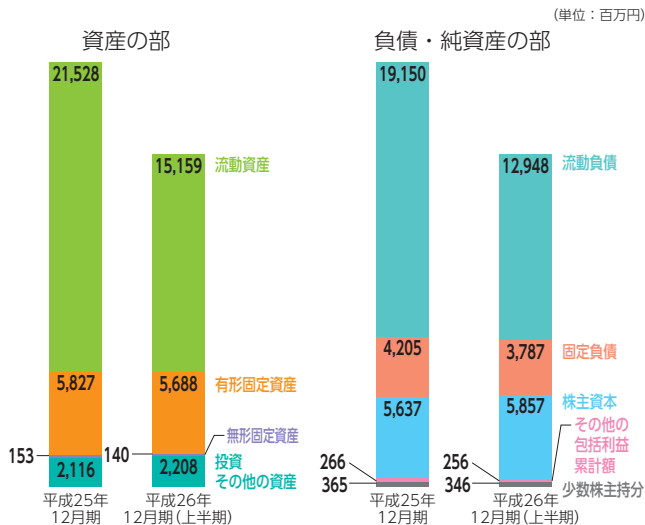


卸売編

精米されたおコメをスーパーやコンビニ、外食、生協などに卸します。



財政状態



総資産

現金及び預金の減少額747百万円、受取手形及び売掛金の減少額2,416百万円、たな卸資産の減少額2,764百万円等により、前期末から6,429百万円減少し、23,196百万円となりました。

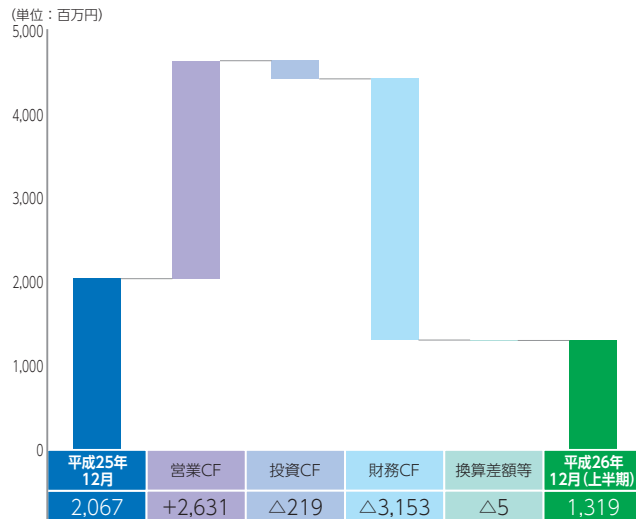
負債

支払手形及び買掛金の減少額2,733百万円、短期借入金の減少額2,331百万円、長期借入金の減少額725百万円等により、前期末から6,620百万円減少し、16,735百万円となりました。

純資産

繰延ヘッジ損益の減少額44百万円等に対し、利益剰余金の増加額220百万円等により、前期末から190百万円増加し、6,460百万円となりました。

キャッシュ・フローの状態



営業活動によるキャッシュ・フロー

主に仕入債務の減少2,733百万円、その他の流動負債の減少1,179百万円に対し、売上債権の減少2,414百万円、たな卸資産の減少2,746百万円があったこと等により、営業活動の結果獲得した資金は、2,631百万円(前年同期は464百万円の使用)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に有形固定資産の取得による支出177百万円、投資有価証券の取得による支出22百万円があったこと等により、投資活動の結果使用した資金は、219百万円(前年同期比21.4%減)となりました。

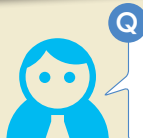
財務活動によるキャッシュ・フロー

主に短期借入金の減少2,309百万円、長期借入金の返済による支出1,027百万円があったこと等により、財務活動の結果使用した資金は、3,153百万円(前年同期は356百万円の獲得)となりました。

第66期株主通信アンケート結果

第66期株主通信においてお願いしておりました株主アンケートでは、大変多くの株主の皆様からご回答いただきました。ご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。いただいた貴重なご意見を、今後のIR活動の参考にさせていただきます。

株主の皆様からお寄せいただいたご意見・ご質問に回答します！



Q

社会福祉に関わる商品(食品)作りに力を入れてほしい。

A

当社が現在力を入れているたんぱく質調整米は、お米に含まれるたんぱく質を除去して作っており、腎臓病患者様を中心にご利用いただいております。



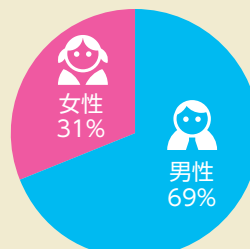
Q

時々アンケートを実施してほしい。

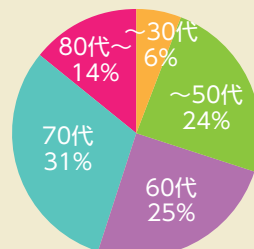
A

現在当社では毎年期末の株主通信にアンケートハガキを同封しております。皆様からの貴重なご意見を今後のIR活動に活かしていければと考えておりますので、今後ご意見をお寄せください。

回答者：241名(回収率13.7%)



性別



年齢



Q

神戸にすしチェーンを傘下に持つ神明HD(非上場)がありますが、貴社はどう思いますか？

A

神明HD様と当社では事業展開や販売チャネルが異なります。切磋琢磨して企業力を高めていながらも、業界内で協調すべきところは連携し合い、バイイングパワーを発揮できる体制の構築も図っていきます。



Q

大消費地である中国への進出も検討されてはどうでしょうか？

A

当社の顧客である外食産業・小売業の企業は現在積極的に中国への出店を進めております。当社としてはお客様の中国進出に合わせておコメを提供する形での中国展開を推し進めております。

Renewal

ホームページをリニューアルしました

2014年8月、ホームページを約3年ぶりにリニューアルしました。より多くの方々に当社を理解していただけるよう、トップページに専用コンテンツ「1分で分かる木徳神糧」を新設し、より使いやすい、分かりやすいサイトを目指し、ページ構成やデザインも見直しました。

▶▶ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp>



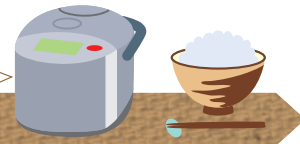
トップページ



1分で分かる木徳神糧

食卓編

スーパーなどで購入したおコメを炊き、食卓に美味しいおコメがならべられます。



●会社概要

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地 〒132-0015 東京都江戸川区西瑞江2-14-6
TEL : 03-5636-1501(代表)
FAX : 03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 218名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp>

株式情報

●株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
(2) 発行済株式の総数 8,530,000株
(3) 株主総数 1,706名
(4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村謙三	405千株	4.77%
木村 良	352	4.14
濱田精麦株式会社	320	3.77
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
株式会社神明ホールディング	247	2.91
木村友二郎	243	2.86
稲垣辰彌	230	2.71
水野正夫	226	2.66
木徳神糧従業員持株会	197	2.33
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

- (注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(47,134株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

●役員

取締役・監査役

取締役会長 木村 良
代表取締役社長 平山 惇
取締役専務執行役員 水野 正夫
取締役常務執行役員 三澤 正博
取締役常務執行役員 伊豫田直記
取締役常務執行役員 天川 誠
取締役執行役員 鎌田 慶彦
取締役執行役員 竹内 伸夫
取締役執行役員 稲垣 英樹
取締役執行役員 石田 俊幸
常勤監査役 高橋 健治
監査役(社外) 杉野 翔子
監査役(社外) 福田 真也

執行役員

執行役員 竹田 光男
執行役員 大橋 正博
執行役員 岩苔 永人

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 日本経済新聞

株主優待のご案内

1,000株以上ご所有の株主の皆様
株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様

- 1,000株以上2,000株未満 ▶ 2,000円相当の米穀製品
2,000株以上 ▶ 4,000円相当の米穀製品等※

12月末現在の株主様

- 1,000株以上 ▶ 3,000円相当の米穀製品

※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

ポイント1

年2回の贈呈

12月末現在の株主の皆様

▶ 3月頃発送

6月末現在の株主の皆様

▶ 9月頃発送

ポイント2

当社米穀製品を
お届けします。



新潟県こしひかり
900gパック

山形県つや姫
900gパック

北海道ゆめぴりか
900gパック



丹波大納言小豆の赤飯



旬の食材を使ったレシピ

トマトビーンズカレー

水を加えずにトマトの水煮で煮る、トマトの酸味がきいたスパイシーなカレーです。

材料 (2人分)

玉ねぎ.....1/2個	ミックスピーーンズ.....60g
にんにく.....1かけ	洋風スープの素(ブイヨン) ...小さじ1
パプリカ(赤).....1/2個	白ワインor酒.....大さじ2
マッシュルーム.....4個	ケチャップ.....大さじ1
ウイナーソーセージ.....4本	しょうゆ.....大さじ1/2
カレー粉.....大さじ1	ご飯.....2杯分
塩・こしょう.....各少々	パセリのみじん切り.....適宜
カットトマト水煮.....1/2缶(200g)	

- 玉ねぎとにんにくはみじん切り、パプリカ(赤)は乱切りにする。マッシュルームは縦半分、ウイナーソーセージは斜め切りにそれぞれ切る。
- フライパンに、米油(小さじ1)を入れにんにくを炒める。香りが出たら1の残りの材料を加えて炒め、カレー粉を混ぜ合わせ、塩、こしょうで味を調える。

- 2にカットトマト水煮を加えてつぶし、ミックスピーーンズを加える。さらに洋風スープの素とAの材料を加え、やや弱火で約15分煮る。
- 器にご飯を盛り付け3をかけ、パセリを散らす。

●調理時間30分 ●カロリー：484kcal/1人分